

若者の就職について、ハローワークとまこまいの渡部さんにお話を聞きました。

「最近、特に問題となっているのは、若年層の離職率の高さです。北海道労働局の調査では、道内で高卒の新規就職者のうち半数以上、大卒で3割以上が3年以内に離職しているという結果が出ています」

この問題について、若い求職者に対し、「世の中の仕事を、幅広く知って欲しい」とアドバイスする渡部さん。「自分が知っている仕事の中から選ぶのではなく、親や先輩など、たくさんの人に話を聞くことで、選択肢は大きく広がります」

また、事前の企業研究も重要だそうで、「同じ製造業でも、何を作るかによって仕事内容はかなり変わります。自分が就きたい仕事について知らない」と、働いた時に、「あれ、思ってた仕事と違うぞ」となり、精神的な負担となることもあります。安心して新しい環境に飛びこめるよう、ハローワークの就職相談や適性検査などをうまく利用していただければと思います」

仕事や職場に適応できず、望まない離職をすることで、働くことに苦手意識を持ってしまふ人もいる、と渡部さん。「100%希望通りの仕事を見つければ、給与や勤務時間、職場環境など、特に何を重視して働きたいかを考えておくことが大切です」と教えてくれました。

ハローワークとまこまい

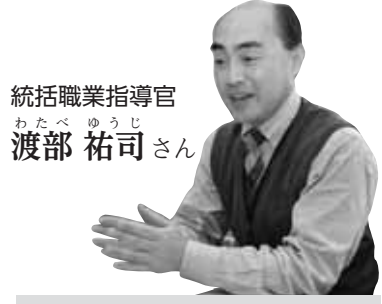
とまこまい若者サポートステーション



キャリア・コンサルタント
やもりらいむ
家守 来武さん

働くことに関して悩んでいた、自信が持てなくなった15~39歳を対象に支援する

インタビュー
あなたの「ハタラク」サポートします



統括職業指導官
わたべゆうじ
渡部 祐司さん

就職・転職についての相談や指導、職業紹介、雇用保険の手続きなどを行う

とまこまい若者サポートステーション(通称 サポステ)は、厚生労働省の認定事業として、今年度で設立3年目となりました。

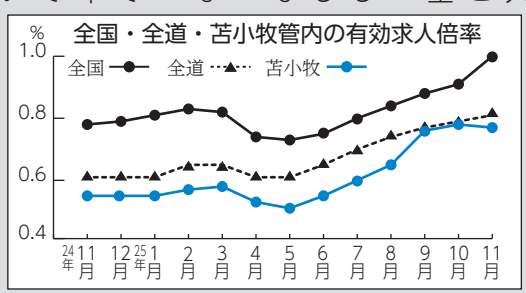
「利用者の数は年々増えてきています」と、相談を受ける家守さん。就労中や未就労の方からの相談もあります。「特に多いのは、高卒で働き始めたあと、何らかの理由でその仕事を辞めてしまい、働くことにマイナスのイメージを持ってしまった方です」と話します。

離職などがきっかけで対人関係に不安を持つ人や、自信がなく社会生活に悩んでいる人には、就職活動の準備が必要。サポステは「軽スポーツなどのトレーニングや、コミュニケーションの訓練などで、心と体のリズムを整えることから始めていきます。その後、自分自身の経験の振り返り、履歴書などの応募書類の作成、面接練習から応募へと繋げていきます」と、利用者の状況に合わせた支援を行っています。

キャリア・コンサルタントとして、数多くの利用者と触れ合いながら、その人に適した職業と一緒に考えてきたという家守さん。「ここに相談に来るのは、自分の苦手なこと、辛いことを抱えながら、『このままじゃいけない』『誰かに認められたい』という思いのある方たちです。その気持ちをしっかりと受け止めて、背中を押してあげられるようなサポートをしていきたいですね」

苦小牧の「ハタラク」事情

苦小牧の求人・求職の状況を見ると、自動車関連の製造業や、港湾や空港に關係した運送業など、地域ならではの職種の求人数が伸びています。しかし一方で、求職者の人気が高いのは事務系の職種であり、こちらの求人数はそう多くありません。この状態は、雇用のミスマッチ※1と呼ばれ、結果として、就職率の低下や、新卒者など若い世代の市外流出を招いています。



※1 求人と求職者のニーズが一致せず、特定の業種に求職者が集中したり、逆に求人が満たされない状態。
※2 求職者数に対して求人の数がどれくらいかを表す数値。1.0倍を超えると、求職者より求人が多い状態となる。